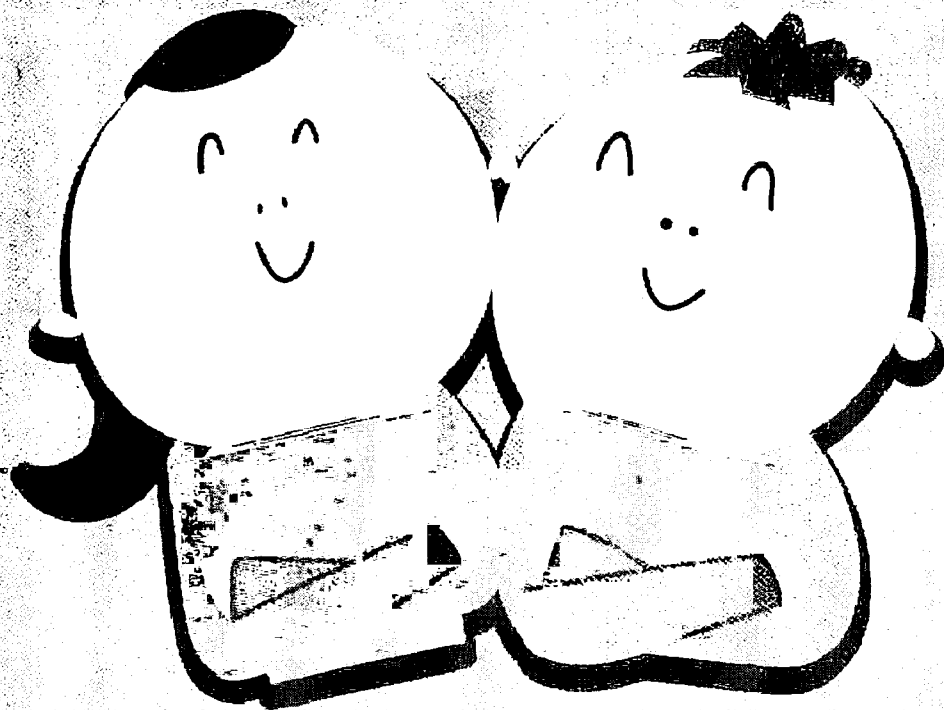


岩手の 小規模・複式指導ハンドブック

— 初めて複式学級を担任する先生へ —



岩手の 小規模・複式指導ハンドブック

— 初めて複式学級を担任する先生へ —

平成15年度までのQ&A

国語

- Q1 単位時間の指導過程をどのように設定すればよいでしょうか。
..... 14
- Q2 間接指導・直接指導を充実させるためには、どのような工夫をしたらよいでしょうか。
..... 16
- Q3 複式の学習指導案を作成するときに、留意することは何でしょうか。
..... 20

算数

- Q1 複式の学習指導において、「考える力」を高めるために、どんなことに気を付ければよいのですか。
..... 22
- Q2 間接指導で主体的な学習を継続するには、どのような工夫をしたらよいでしょうか。
..... 24
- Q3 複式の学習指導において、個別指導の時間を確保するにはどのようにしたらよいでしょうか。
..... 26
- Q4 補充的・発展的な学習には、どのようにして取り組ませたらよいでしょうか。
..... 28

学級経営

- 01 複式学級や少人数学級のよさを生かして学級経営を行うには、どのような工夫と配慮が必要でしょうか。
..... 30
- 02 複式学級や少人数学級において、豊かな人間関係をつくりあげ、社会性を培うには、どのような配慮が必要でしょうか。
..... 32

- Q1 複式学級において様々な活動を活性化するには、どのようなことに留意すればよいでしょうか。 34
- Q4 掲示等の教室環境作りのポイントを教えてください。 36

教育課程

- Q1 教科指導において、担任外の先生方による協力教授は可能ですか。また、その際の時間割の組み方はどのようにしたらよいですか。 38
- Q2 合同学習は、どのような教科で実施すると有効ですか。また、その際にどのようなことに留意したらよいですか。 40
- Q3 変則複式学級において、学年の目標の違いに応じた指導を充実させるためには、どのようなことに留意したらよいですか。 42
- Q4 複式学級において、理科実験や校外学習など、一方の学年に重点的に指導しなければならないとき、もう一方の学年の学習効果をあげるには、どのような方法がありますか。 44

国語

- 効果的な指導過程を設定し、児童に学び方を身に付けさせましょう。
- 直接指導・間接指導を充実させ、一人一人に確かな国語の学力を身に付けさせましょう。
- 複式学級の利点を生かした指導と評価の計画を立案しましょう。

① 単位時間の指導過程について

Q1 単位時間の指導過程をどのように設定すればよいでしょうか。

A 指導内容や学習のねらいに合わせて、最も効果的な指導過程を設定しましょう。



複式学級を有する学校での国語科の指導は、ほとんどの場合、「同単元類似内容指導」で指導されています。その場合、指導内容や学習のねらいに合わせて指導過程を選択することで、指導がより効果的になります。

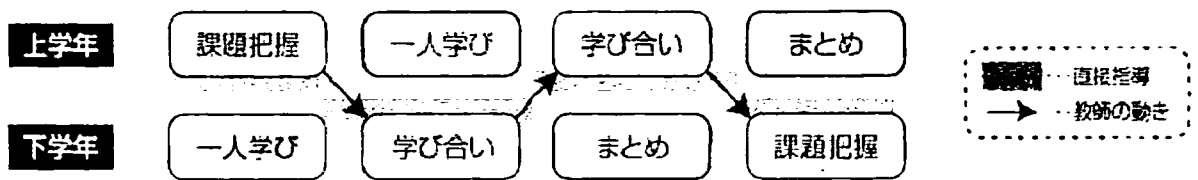
「同単元類似内容指導」とは…

上下両学年が同じ分野の教材をできるだけ同じ指導時間になるように対応させて配列し、上下学年が同じような学習活動を展開する指導計画のことです。

- 例1) 1年 物語文「くじらぐも」
2年 物語文「お手紙」
- 例2) 3年 書くこと「おもしろいもの、見つけた」
4年 書くこと「新聞記者になろう」
- 例3) 5年 説明文「サクラソウとトラマルハナバチ」
6年 説明文「生き物はつながりの中に」

※ このように、両学年とも類似した内容の教材を同時に指導するように計画を立てて学習を進めます。

1 段階毎に「すらし」を取り入れた指導過程



この指導過程は、一段階を大きく「すらし」で組み合わせたものです。一方の学年は課題把握の段階から、もう一方の学年は前時の続きの段階から授業に入ります。教師は段階毎に「わたり」ながら指導に当たります。共通指導の場面をとることはできませんが、両学年の学び合いの時間を直接指導で指導できるなどの長所があります。

どんなときに…

「読むこと」の領域の指導の際に使用することができます。学び合いの途中で「わたり」をすることがないので、物語文や説明文の読み取りの学習の源、学術の流れを切ることなく読み取りを進めることができます。学び合いを通して読みを深めたいとき、作品の雰囲気や大切にしながら読みを進めたいときに適しています。

気を付けることは…

- ① 間接指導の時間が長くなることが予想されます。間接指導に入る前の指示を明確にし、児童が主体的に進めることができるようにしましょう。学習リーダーとの打ち合わせなども必要となってきます。
- ② 間接指導の際の児童の自主的な学習を促進する環境を整えましょう。(ヒントカードやチャレンジカード、図鑑辞典、パソコンなど)

「わたり」とは…

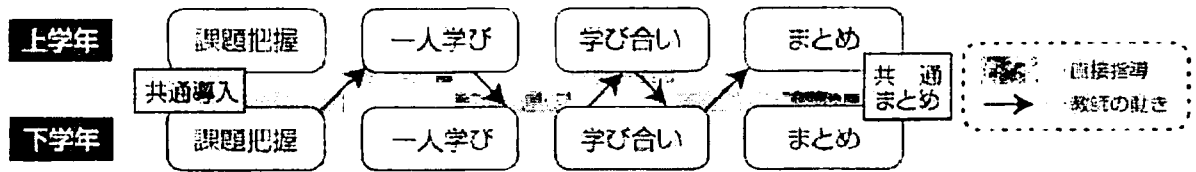
教師が一方の学年から他方の学年へ交互に移動して直接指導に当たることを「わたり」といいます。



「すらし」とは…

指導段階を学年別にすらしで組み合わせることを、「すらし」といいます。

2 段階内で「ずらし」を取り入れた指導過程



この指導過程は、課題把握の段階とまとめの段階に共通指導場面を設定することができます。共通指導場面を設定することによって、上下両学年が共通する目標をもつことができ、児童が一体感をもって学習することができ、学習意欲が高まるなどの効果があるといわれています。

この指導過程は、各段階を少しずつずらして組み合わせたものです。学び合いの時間であっても上下両学年を交互に指導する教師の「わたり」が必要となり、教師が直接指導をする「直接指導」の時間と、児童が自学自習をしたり学習リーダーが中心となって学習を進めたりする「間接指導」の時間が生まれてきます。

どんなときに…

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のどの領域においても使用することができます。共通の場面を設定することにより、下学年は学習の見通しをもちやすくなり、上学年は学習事項との関連が明らかになります。

〈共通導入の活動例〉

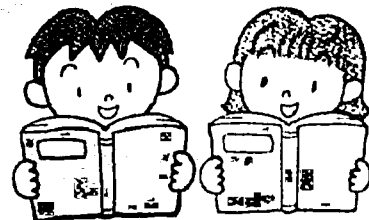
- 共通部分を確認する。(学習課題の共通部分や学習の目標の共通部分、学習の仕方など)

〈共通まとめの活動例〉

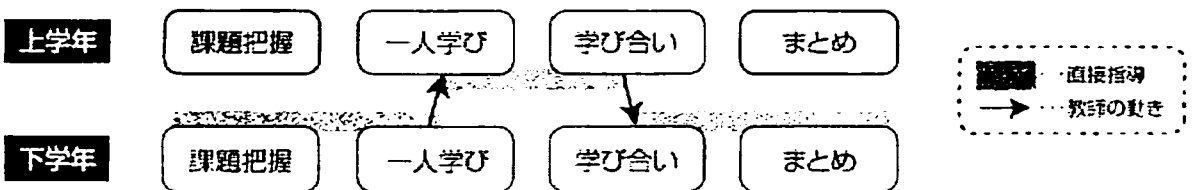
- お互いに学んだことを発表し合う。
- 上学年が下学年にアドバイスをする。

「わたり」を取り入れるために…

- ① 間接指導になったときに主体的に学習できる力を身に付けさせましょう。(個人で・学習リーダーを中心に)
- ② 間接指導に入るときには、何をすればよいのかを児童が明確に把握できるようにしましょう。
- ③ 見直しをもって学習に臨めないと思われる学年から先に直接指導例に入りましょう。(基本的には下学年から間接指導に入ります。)



3 一方の学年の直接指導を主眼においた指導過程



この指導過程は、一方の学年に重点的に直接指導を行うことができます。上の図は下学年の直接指導に重点をおいた指導過程の例ですが、学習内容や児童の実態によって、上学年の直接指導に重点をおくこともあります。

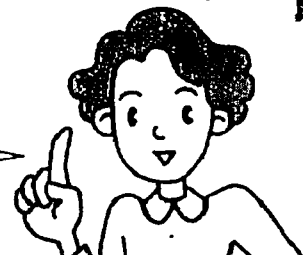
どんなときに…

一方の学年の直接指導が大切になってくる内容の学習の際に使用します。また、一方の学年に特別に配慮が必要となる場合などにも使用できます。

「わたり」を取り入れるために…

- 気を付けることは…
- 間接指導を中心に進める学年への配慮を工夫しましょう。学習を進めるために必要な補助教材を準備し、間接指導の際の学習を充実させましょう。

この他にも、両学年同時に直接指導にして机間巡視・個別指導を行うなどの形も考えられます。また、これらの形を組み合わせる指導に当たる場合もあります。これらの指導過程を基に、指導内容や学習のねらい、児童の実態に応じて指導過程を検討し、最も効果的な指導過程を選択しましょう。



② 間接指導・直接指導を充実させるための工夫

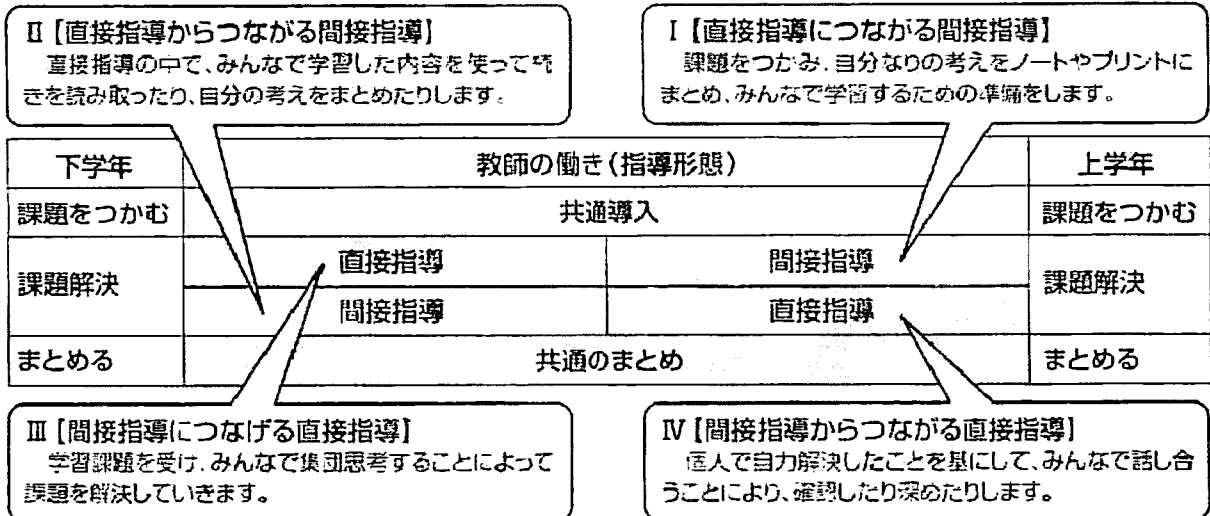
Q2

間接指導・直接指導を充実させるためには、どのような工夫をしたらよいでしょうか。

A ○ 間接指導とは、複式形態の授業において、教師が一方の学年の児童を直接指導している間に、他の学年の児童が課題を解決するために個人または集団で学習活動を進める場面です。したがって、学習の手順や内容をはっきりさせ、児童自らが主体的に学習を進めていけるように手立てを取る必要があります。

○ 直接指導とは、複式形態の授業において、一方の学年の児童が教師から直接に指導を受ける学習場面です。集団での大切な学習の時間であり、教師と共に学習を確かなものにし深めていく時間です。また、その前または後にある間接指導とつながっていく学習の時間でもあります。そのため、学習の目的をしっかりともって授業を進めることが大切です。

Q1で紹介した指導過程の他に、共通導入・共通のまとめを取り入れた指導過程として、次のようなものがあります。



ここでは、この指導過程に沿って、間接指導・直接指導の工夫について実践例を挙げて説明します。

I 直接指導につながる間接指導

児童が、意欲的に学習に取り組むとともに、自ら学び自ら考える力をはくくむことができるように、共通導入では課題を明確にし、学習内容だけではなく学習の手順もはっきりさせておくことが大切です。

例) 5年「一秒が一年をこわす」 6年「外来語と日本文化」

<共通導入>

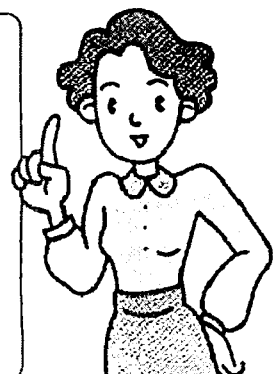
○学習課題の確認

- 5年…地球環境について考えよう
- 6年…言葉と文化について考えよう

○学習の仕方の確認

- ・サイドラインを引きながら読む。
- ・事実と筆者の考えを分けて読み取る。
- ・文末や接続語に気を付けて読む。

- ☆ 学習の仕方として共通することについては、2学年一緒に確認しておく方が、同じ学級で同じ学習をしているという意識が育ち易くなります。
- ☆ 上学年は、学習の仕方を復習・確認できます。また、下学年は学習内容を応用することによって、上学年でも同じ学習の仕方が使えることを学ぶことができます。



六年「創造」

例2 6年「創造」…学習の手順の書かれたカードを渡す

☆ 間接指導のとき、本時学習する場面の自主学習になるので、カード等で伝えと、学習の手順がしっかり分かります。年度の始めや新しい単元のときは、特に必要です。また、この学習を通すことでノート作りも、自分でできるようになってきます。

☆ 分からない言葉等は、国語辞典で意味調べをする習慣も付けておきましょう。このような活動は、辞典の使い方を学習する中学年からできます。

- 一 国語辞典を調べる。(二回)
- 二 この時は、前編で学んでいますが、
- 三 ノートに短歌をしよう。
- 四 見附きスペースを設ける。
- 五 一行四行で短歌しよう。
- 六 連七連の節は三行開けよう。
- 七 好きな言葉、句を入った言葉にサイドライン(罫)を引き、自分の考えを調べる。
- 八 「創造」という題がついた理由を調べよう。

例2 4年「ツバメがすむ町」

① 授業の振り返り
② 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

③ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

④ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑤ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑥ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑦ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑧ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑨ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑩ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑪ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑫ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑬ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑭ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑮ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑯ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑰ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑱ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑲ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

⑳ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉑ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉒ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉓ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉔ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉕ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉖ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉗ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉘ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉙ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉚ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉛ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉜ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉝ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉞ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㉟ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊱ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊲ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊳ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊴ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊵ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊶ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊷ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

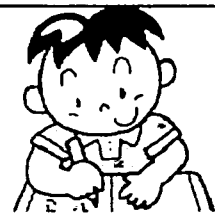
㊸ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊹ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

㊺ 授業の振り返り(自分の学びを振り返る)

☆ 低学年や中学年では、一人でのノート作りが難しいときもあります。プリントやワークシートを用いることによって学習の手順を確認するだけでなく、ノート作りについても学ぶことができます。

ただし、ワークシートはあくまでも、自ら学ぶ力を付けるための一段階であることをおさえておくことが大切です。



II 直接指導からつながる間接指導

みんなで学習したことの、応用・発展・まとめになる学習をします。

例1 5年「インタビュー名人になろう」

<直接指導>

- 自分のインタビューを振り返る。
 - ・うまくできたところ
 - ・直したいところ
- インタビュー名人のポイントを見付ける。
 - ・ビデオA:自分の聞きたいことだけを聞く
 - ・ビデオB:相手の話を受けて聞く



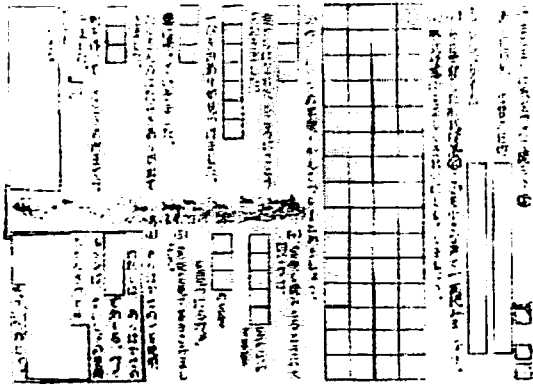
<間接指導>

- インタビュー名人のポイントをノートにまとめる。
- インタビューメモを作る。
 - ・相手の答えを予想して考える
- インタビューの練習をする。
 - ・自分で練習する
 - ・二人で練習する

☆ 本時の学習内容を振り返り、自分なりに学んだことをまとめることが大切です。また、物語の読み取りの学習では、板書を見ながら自分のノートをまとめることで、ノートの書き方を学ぶことができます。

☆ 学習したことを振り返ったり、それを使って学習を進めていったりすることが多いので、学習した内容が分かり易く板書にまとめられていると、よりよい自主学習ができます。

例2 3年「ありの行列」



- ☆ 学習内容をもう一度振り返り、ワークシートにまとめることで、学習内容の定着を図ることができます。
- ☆ みんなで学習した方法を使って自分の力で続きを読み取っていくようにします。



Ⅲ 間接指導につなげる直接指導

学習の仕方を学び、その後の間接指導において、児童が自主的に学習を進めていける素地を作ります。また、相互学習の時間なので、みんなで考えたり話し合ったりすることを大切にしましょう。

例1 5年「ブラム・クリークの土手で」

学習課題：ローラはクリークのことをどう思っているだろうか。

<直接指導>

- 1 大きく変わるところはどこですか。
- 2 前半と後半では、ローラのクリークに対する考えはどのように変わっていますか。
- 3 前半部分の読み取りについてみんなで話し合ってみましょう。

★ 児童の初発の感想から、自分たちで課題を作ることで、意欲的に読み取ろうとする意識が育ちます。

★ 細かく読み取る学習だけを行うのではなく、文章全体を大きく見取る力も付けることが大切です。

【話し合いの仕方】

- ◆ 根拠をはっきりさせて話そう。(根拠は必ず教材の中にあります。)
- ◆ 友達の発表に関連させて話そう。

「わたしも、〇〇さんと同じ言葉から考えました。ローラは●●だけでなく、◇◇とも思っていると思います。」

「その言葉は、◇◇という意味があるので、ローラはクリークのことを●●と思っていることが分かりました。」

「〇〇さんは、●●と言いましたが、それよりも△△のような気持ちが強かったと思います。」

「わたしは、●●と思っていることが、他の■■という言葉からも分かりました。」

<間接指導>

- 1 板書を見ながら、ノートをまとめよう。
- 2 後半部分を自分の力で読み取ろう。

☆ 板書を見ることで、学習の様子をもう一度振り返ることができるとともに、ノートの作り方が分かります。また、自分の考えをさらに付け加えることで、考えが確かなものになっていきます。



IV 間接指導からつながる直接指導

間接指導で自己学習したことを基にして、みんなで学習する場です。自分一人では分からなかったことやはっきりしなかったことを、より確かなもの、より深いものにするための学習です。

例1 6年「わたしの6年間」

学習課題:スピーチ名人になろう

<間接指導>

- 1 スピーチ名人のポイントを見付けよう。
 - ・2つのスピーチ原稿を比べ、大切なポイントを見付ける。
 - ・自分のスピーチメモに工夫を書き込む。
- 2 スピーチ練習をする。



<直接指導>

- 1 スピーチ名人のポイントを**確認**する。
(スピーチ原稿より)
- 2 スピーチをテープで聞く。
テープA:大村さん(言葉が平坦なもの)
テープB:木村さん(効果的な言葉遣いのもの)
- 3 話の初めを考える。
テープC:森村さん(話の初めが印象的なもの)

☆ 原稿で見付けたことをみんなで確認することで、木村さんの原稿は、劇が入っていたり、印象的な表現があったりして、聞きたくなる工夫があることがはっきりとします。

☆ テープで実際のスピーチを聞くことで、原稿からでは分からなかった言葉の印象をみんなで見つかることができます。

☆ テープCを聞くことで、A、Bとの違いを考え、よさをみんなで見付けます。

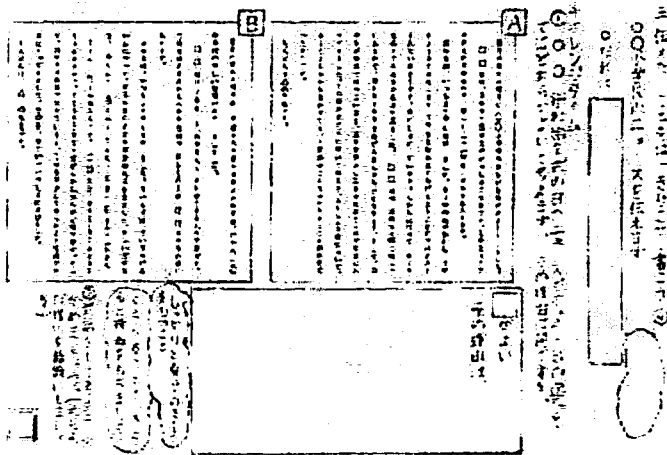
例2 4年「〇〇小学校のニュースを伝えます」

<間接指導>

- 1 AとBの文章を比べ、よい文章を見付けよう。(理由も)
- 2 二人組で、どちらの文章がよいか話し合ひましょう。

<直接指導>

- 1 二人組で、話し合った内容や迷ったことを話そう。
- 2 どちらのところがよいか、みんなで話し合おう。



☆ A、Bの文章のそれぞれにより部分を入れることで、友達と話し合う意味が出てきます。間接指導のとき、二人組で話し合った結果、お互いの意見が分かれても、それぞれの考えを聞こうという意識が育ちます。

☆ 直接指導では、文章のよいところをはっきりさせるために、お互いの意見を出し合っ、考えをまとめていきます。二人組では、はっきりしなかったことも、みんなで話し合ったり、先生と確かめたりすることで、確かなものになっていきます。

③ 学習指導案作成のポイント

03 複式の学習指導案を作成するときに、留意することは何でしょうか。

A 目標を重点化・具体化して指導と評価の計画を立て、2学年の学習活動が無理なく、効果的に展開するような単元構成、単位時間の流れを考えましょう。

指導案の作成例

第3学年

第4学年

1 単元名 まとまりに気をつけて読もう

2 教材名 ありの行列(大)

3 単元について(省略)

4 単元の目標

- ありの行列の秘密は、うとする。(国語への)
- 段落の中心となる語や文をとらえて、要点をまとめることができる。(読むこと)
- 文末の表現の違いや時間を表す言葉の使い方について理解することができる。(言語についての知識・理解・技能)

☆ 「児童観」から書きましょう。
☆ 少人数の利点を生かし、一人一人のよさやさらに伸ばしたい点を書くようにします。

1 単元名 段落のつながりに気をつけて読もう

2 教材名 「かむ」ことのか(金田 列)

3 単元について

4 単元の目標

- 「かむ」ことのかについて見
- 段落のつながりをとらえ、大きなまとまり相互の関係や役割を理解することができる。(読むこと)
- 語句の性質や役割を考えながら、反対の言葉や仲間の言葉を集めることができる。(言語についての知識・理解・技能)

☆ この単元で児童にどのような力を付けるのか、目標を重点化します。
☆ 指導内容に関連のある単元を組み合わせることにより、効果的に異学年の交流を行うことができます。

5 指導計画及び評価規準

評価規準	学習活動(全8時間)	次・時	学習活動(全8時間)	評価規準
○ 「ありの行列はなぜできるのか」という問いに興味をもって、読み進めている。(関)【観察】	・ 新出漢字の読み書きを練習し、全文を通読する。	一次 1	・ 新出漢字の読み書きを練習し、全文を通読する。	○ 「かむ」ことに興味をもって、読み進めている。(関)【観察】
○ 初めて知ったことや驚いたことを進んで発表している。(関)【発表】	・ 初めて知ったことや驚いたことを交流し、学習計画を立てる。	2	・ 初めて知ったことや大切だと思ったことを交流し、学習計画を立てる。	○ 初めて知ったことや大切だと思ったことを進んで発表している。(関)【発表】
◎ 指示語の内容をとらえたり、中心となる文を見付けたりして要点をまとめている。(関)【ワークシート】	・ ①～③段落を読み、大切なところをまとめる	二次 1 本時	・ ①～③段落を読み、大切なところをまとめる。	◎ 中心となる文や語を見付けたり、①段落とのつながりを考えたりして要点を短くまとめている。(読)【ワークシート】
○ 教材文から学んだことやさらに学習したいこと等を進んで発表している。(関)【発表】 ○ 文の内容による文末表現の違いや時間を表す言葉の種類や使い方について理解している。(書)【ノート】	・ 教材文を読んで学んだことを発表する。 ・ 文末表現の違いや時間を表す言葉の使い方について学習する。	三次 1	・ 教材文で学んだことを基に、自分の体や生活について考えたことを発表する。 ・ 反対の言葉や仲間の言葉を集める。	○ 教材文から学んだことを基に、自分の体や生活について見直そうとしている。(関)【発表】 ○ 語句の性質や役割を考えながら、反対の言葉や仲間の言葉を集めている。(書)【ノート】

☆ 重点化した単元の目標を基に、より具体化したB規準を設定します。
☆ 評価の観点や評価方法を明示します。
☆ 評価項目を絞り込み、単位時間で確実に評価できるように計画します。

☆ 学習活動に関連をもたせることにより、さらに異学年の交流がしやすくなります。
☆ 同じ指導事項を取り扱う時は、各学年の段落を考慮して、目標や評価規準を設定します。

☆ 評価規準、本時の目標を受け、さらに具体化した規準を設定。まず
 ☆ A規準に基その例を、Cには具体的な支援を書きます。

6 本時の指導

(1) 目標

◎ 指示語の内容をとらえたり、中心となる文を見付けたりして、①～③段落の要点をまとめることができる。

(2) 具体の評価規準

Aの例: 大事なことを落とさず、自力で要点をまとめている。
 B規準: 中心となる文を見付け、指示語の指し示す内容を補って、要点をまとめている。
 Cへの支援: 問いの文を探したり、読み落としてはいけない語をとらえたりして、一緒に要点をまとめる。

(2) 展開

(1) 目標

◎ 中心となる文や語を見付けたり、①段落とのつながりを考えたりして、要点を短くまとめることができる。

(2) 具体の評価規準

Aの例: ①段落とのつながりや重要語句を手がかりに、自力で短く要点をまとめている。
 B規準: 問いの文や重要語句に気を付けて文章を読み取り、要点を短くまとめている。
 Cへの支援: 問いの文の文末表現や重要語句から中心文を見付け、その文を基に要点をまとめる。

(2) 展開

段階	◇指導上の留意点◆評価	学習活動	形態	学習活動	◇指導上の留意点◆評価	段階
課題把握 5分	◇ 段落という言葉や要点をまとめる意義や目的を確認する。 ◇ 共通の導入とし、共に学習するという意識を持たせ、課題の共通性や相違点をつかませる。	1 課題をつかむ。 ①②③段落の大切なところをまとめよう。 ☆ 直接 間接の別を明かすか記号で表します。		1 課題をつかむ。 ①②③段落の大切なところを短くまとめよう。	◇ 段落という言葉や要点をまとめる意義や目的を確認する。 ◇ 共通の導入とし、共に学習するという意識を持たせ、課題の共通性や相違点をつかませる。	課題把握 5分
課題追求 30分	◇ 正しく読めているかどうか、言葉の意味等を確認する。 ◇ 指示語の種類や指し示す内容は指示語の前にあること等を確認する。 ◇ 自力で学習を進めることができるようなワークシートを用意する。 ◆ 中心文を見付け、指示語の指し示す内容を補って要点をまとめることができたか。	2 学習範囲を音読する。 3 指示語の指し示す内容について考える。 4 各段落の中心文を探し、指示語の内容を補って要点をまとめる。 ☆ 2学年を同時に把握できる時間帯を設定すると、個別に適切な指導・支援を行うことができます。		2 各段落の中心的内容や指示語の指し示す内容等を読み取る。 3 学習範囲を音読する。 4 2で読み取った内容について確認する。 5 問いの文や重要語句に気を付けて、要点を短くまとめる。	◇ 自力で学習を進めることができるように、ワークシートを用意する。 ◇ 正しく読めているかどうか、言葉の意味等を確認する。 ◇ 要点のまとめにつながるような助言をする。 ◆ 問いの文や重要語句に気を付けて文章を読み取り、要点を短くまとめることができたか。	課題追求 30分
まとめ 10分	◇ 交流の仕方について指導する。 ◇ 4年生の学習のよさに気付くことができるようにする。 ◇ 学習への取組方や学習の成果等について自己評価する。	5 各自がまとめた要点を交流する。 6 交流の結果を4年生に報告する。 7 本時の学習の自己評価を行う。 8 次時の学習内容を確認する。		6 各自がまとめた要点を交流する。 7 交流の結果を3年生に報告する。 8 本時の学習の自己評価を行う。 9 次時の学習内容を確認する。	◇ 三分たちで進めることができるようにする。 ◇ 3年生のがんばりに気付くことができるようにする。 ◇ 学習への取組方や学習の成果等について自己評価する。	まとめ 10分

☆ 異学年が同じ教室で学ぶというメリットを生かし、「共通導入」や「共通のまとめ」を積極的に取り入れましょう。
 ☆ 複式学級の少人数であることのプラス面を積極的に生かすという観点から、指導案に「億々の実態把握」や「個別の支援計画」等を位置付け、一人一人によりきめ細かな指導・支援を行うことが大切です。学級や児童の実態、学習内容に応じて、工夫してみましょう。

算数

- 考える力を付けさせましょう。
- 間接指導や個別指導を充実させましょう。
- 補充的な学習、発展的な学習にも取り組みましょう。

01

複式の学習指導において、「考える力」を高めるために、どんなことに気を付ければよいのですか。

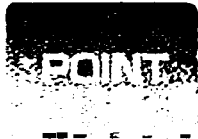
A まずは、個々の考えを大切にしましょう。
そこから、みんなで学び合いながら考える力を高めていきましょう。

I 個々の「考え」を大切にする指導



自力解決は、「間接指導」で行われることが多くなります。したがって、ここでどのようにして一人一人に自分なりの考えをもたせるようにするかが大切になります。その手だてとしては、次のことが考えられます。

- ア 解決の見通しをもたせます。
- イ 学習の順序を押さえます。(アとイについては、24～25ページ参照)
- ウ 考え方のヒントを与えます。(以下のポイント参照)



- ① 自分の力でできる児童に対しては、自分の力で解決させますが、支援が必要な場合には、学習プリントでの学習やヒントカードの活用など、考え方のもとになるものを提供します。
- ② 友達同士で学び合ってヒントを与えます。少ない人数なので、みんな集まって自分たちで学び合いながら考えることもできます。
(学年が1人で構成されている場合には、「先生はこれは、3つの方法で考えてみたよ。」とか「ブロックを使ってお話をしながらこの計算の仕方を説明できるといいね。」とか、具体的な目標をもたせましょう。)
- ③ 算数的活動を取り入れて、考えをまとめさせます。
具体物やブロックの操作、図や表への書き込み、図を使って計算の仕方を考えさせるなど、算数的活動を行うことにより、より具体的なイメージのある考えに高めましょう。

II 学び合いで個々の考えを高める指導

友達の考えをよく理解し、自分の考えに生かす。
「よく理解」させるためには、次のことに気を付けましょう。



- ・ 組を作って、自分の考えを知らせる。(小グループ、2人1組)
- ・ 友達の考えや式を自分なりに説明させる。(全体指導、小グループや2人1組で行ってもよい。)
- ・ 考えを途中まで発表させて、その後を考えさせる。(全体指導)
- ・ 間違いを活用し、その間違いについて考えさせる。(全体指導) など

III 単位時間の指導

<3年「新しい計算を考えよう」(わり算) 4年「わり算のしかたを考えよう」(わり算の筆算)>

支援の例	学習活動(3年)	形態	学習活動(4年)
<p>学習の順序をしっかりと身に付けておくことが大切です。特に、初めて複式学級を担任した先生は、学習の仕方を児童に理解させるよう工夫しましょう。</p>	1 問題を把握する。	個別 個別	1 問題を把握する。
<p>〈自力でできそうな見通しをもたせる〉</p> <p>解決の方法の見通しをもちませます。答えがどの程度になるのか、どんな方法で考えるといいのか。</p>	2 課題を把握する。 24÷6の答えを計算で見付けよう。		2 求答事項を整理し、わり算であることを確かめる。
<p>〈自力解決の場面でのヒントの工夫〉</p> <p>必要に応じて、ヒントになるものを用意しておきます。掲示も大切なヒントになるので、学習環境も整備しておくように心がけましょう。</p> <p>人数が少ないので、自分たちで集まって考えることもできます。</p>	3 解決方法を考える。		3 課題を把握する。 76÷3の計算の仕方を考えよう。
<p>算数的活動を取り入れて、自分の考えをまとめさせましょう。また、自分たちで集まって考えることもできます。</p>	4 課題を解決する。		4 解決方法を考える。
<p>〈検討段階での考え方の高め方〉</p> <p>①友達の考えを自分なりに説明させる。 ②考えを途中まで発表させて、その後をみんなで補わせる。 ③誤答を生かして、どうして間違っているのかを考えさせる。</p>	5 解決の検討をする。		5 課題を解決する。
<p>〈児童の考えを生かす〉</p> <p>児童一人一人にこの単元を通して「高めたい力」を考えた上で、誰にどんな役割をさせてまとめていくのかを考える。例えば、自分で考えることができなかつたり考えをまとめることが途中だつたりする児童にまとめさせるなど、個の実態に応じた指導に努める。</p>	6 課題の解決の仕方についてまとめる。		6 解決の検討をする。 7 課題の解決についてまとめる。
<p>「学び方」についても振り返りましょう。</p>	7 練習問題を解く。		8 練習問題を解く。
	8 学習を振り返る。		9 学習を振り返る。

02

間接指導で主体的な学習を継続するには、どのような工夫をしたらよいでしょうか。

【算数科複式指導展開】



学び方を身に付け自分たちの力で学習を進められるようにすることで主体的な学習ができるようにします。

- 課題をもつ段階の学び方**
- 改善事項、注意、特技を発表し合い比較する
 - 学習課題の把握(分かっていること、きかれていること)
 - 学習課題の理解
 - 前の学習との異同の区別
 - 解決方法の手順を考える

- 解決をする段階の学び方**
- 順序にしたがった作業
 - よく考えた、なほ強い学習
 - 解決と今一度の振り返
 - 複数の解き方で解く
 - 結果発表の準備

→ 三枚シート等

- 解決を試みる段階の学び方**
- 結果の発表、学び合い
 - 自分の結果と自分の共通点、相違点の整理
 - 考え方や解き方の整理
 - 考え方や解き方のきまりをはっきりさせる
 - 質疑が付けられない場合グループで学び合う

- 用いる段階の学び方**
- 多様な問題においてはある
 - 他のものに応用して使えるかを考える
 - 効果的な練習、訓練により定着
 - 分かったこと、分からなかったことの把握
 - 復習点の把握
 - 次の学習問題を把握
 - 共通の振り返りで確かめ合う

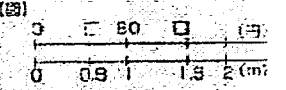
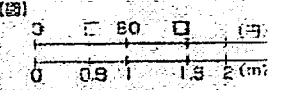
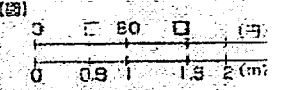
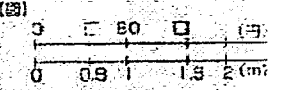
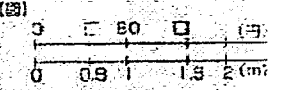
この事例では、下の【複式指導単位時間の模式図】で示すように、学習指導過程を終末の⑤ふりかえるを除いて、①課題をもつ・②解決を試みる・③解決する・④用いるの4段階を設定して、工夫について述べていきます。

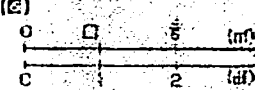
【複式指導単位時間の模式図】

Aの学年		Bの学年	
授業段階	学習活動	形	授業段階
e1	導入 ①課題をもつ	共通(直接)①	導入 ①課題をもつ
e2	展開 ②解決を試みる ③解決をする	間接②	展開 ②解決を試みる ③解決をする
	④用いる		間接③
終末	⑤ふりかえる	共通(直接)⑤	終末 ⑤ふりかえる

※2 直接 ③ 解決をする段階の直接指導 <A学年への配慮事項>

- 「自力解決」の時の留意点
 - ・ 何をすればよいのか明確にする
 - ・ 解決の見直しをもてるようにする
 - ・ 複数の方法で解決できるようにする
- 「用いる」に向けて
 - ・ 学習指導過程に沿って学習プリントを進める
 プリント内容は欲張らず
- 既習内容をいつでも振り返られるようにする

5年 A学年		授業形態
支援	学習活動	
どの単元がつかみやすいか (課題) 問題 1mのなだんが80円のりボンがあり ます。このりボン、3m、0.8mの2人で それぞれ買いますか。 (図)  ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 1.8mより大きい方が買えるようにする。 ○ 6年生が既習しを立てている 所に分かっていることをきかれて いることを確かめ、立式をする ようにする。 既習内容から抽出内容を学 ぶるようにする。 ○ かける数がより大きいとき (80×1.8)で小さいとき(80× 0.8)であることを意識する ようにする。 小数点以下の末尾の0の処 理を確認させる。	既習してつかみやすい 問題 1mのなだんが80円のりボンがあり ます。このりボン、3m、0.8mの2人で それぞれ買いますか。 (図)  ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 1.8mより大きい方が買えるようにする。 ○ 6年生が既習しを立てている 所に分かっていることをきかれて いることを確かめ、立式をする ようにする。 既習内容から抽出内容を学 ぶるようにする。 ○ かける数がより大きいとき (80×1.8)で小さいとき(80× 0.8)であることを意識する ようにする。 小数点以下の末尾の0の処 理を確認させる。 かける数がより大きいとき (80×1.8)で小さいとき(80× 0.8)であることを意識する ようにする。 小数点以下の末尾の0の処 理を確認させる。 かける数がより大きいとき (80×1.8)で小さいとき(80× 0.8)であることを意識する ようにする。 小数点以下の末尾の0の処 理を確認させる。	既習してつかみやすい 問題 1mのなだんが80円のりボンがあり ます。このりボン、3m、0.8mの2人で それぞれ買いますか。 (図)  ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 1.8mより大きい方が買えるようにする。 ○ 6年生が既習しを立てている 所に分かっていることをきかれて いることを確かめ、立式をする ようにする。 既習内容から抽出内容を学 ぶるようにする。 ○ かける数がより大きいとき (80×1.8)で小さいとき(80× 0.8)であることを意識する ようにする。 小数点以下の末尾の0の処 理を確認させる。
	2 解決する。 ○ 計算をして答えを出し、それぞれのか けられる高と幅を比べてみましょう。 (予想される児童の反応) ア: $80 \times 1.8 = 144$ 80 x 1.8 1440 800 ----- 1440 B: $80 \times 0.8 = 64$ 80 x 0.8 640 ----- 640 C: 1.8mの方がかけられる数より幅 が大きくなつていて0.8mの方が小さくな っている。など 3 整理する ○ 問題について分かったことは何ですか。 整理 1.8mより小さい数より高はか けられる数より大きくなります。	既習してつかみやすい 問題 1mのなだんが80円のりボンがあり ます。このりボン、3m、0.8mの2人で それぞれ買いますか。 (図)  ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 1.8mより大きい方が買えるようにする。 ○ 6年生が既習しを立てている 所に分かっていることをきかれて いることを確かめ、立式をする ようにする。 既習内容から抽出内容を学 ぶるようにする。 ○ かける数がより大きいとき (80×1.8)で小さいとき(80× 0.8)であることを意識する ようにする。 小数点以下の末尾の0の処 理を確認させる。
	4 本時の学習内容の既習を行う。 まとめ(なぜか) $80 \times 0.8 = 64$ 1より小さい数 進行 (1) 時間「〇〇分まで一人学びしま す。」 (2) 答え合わせ「式と答えを発表しま す。」 (3) 高が幅より小さいか答えあ わせをして確かめます。 (4) 真し「まちがいを訂正します。」 ○ 幅がより小さくなるのどれですが、 ① 6×0.9 ② 6×1.4 ③ 6×0.8 かける数がより小さいのは幅はか けられる数より大きくなるから。 A: アウ <計算と確かめ>など 5 本時のまとめをする。 ○ 今日の学習で学習したこと6年生 に伝えてください。	既習してつかみやすい 問題 1mのなだんが80円のりボンがあり ます。このりボン、3m、0.8mの2人で それぞれ買いますか。 (図)  ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 ○ 問題を捉えと立式をする。 式が $80 \times 1.8 = 80 \times 0.8$ です。 1.8mより大きい方が買えるようにする。 ○ 6年生が既習しを立てている 所に分かっていることをきかれて いることを確かめ、立式をする ようにする。 既習内容から抽出内容を学 ぶるようにする。 ○ かける数がより大きいとき (80×1.8)で小さいとき(80× 0.8)であることを意識する ようにする。 小数点以下の末尾の0の処 理を確認させる。

6年 6学年	
学習活動	支援
<p>1 問題を読み学習意欲を高める。</p> <p>目標 24で、数を割られるペンキがどの ます。このペンキでは、数を割られ れますか。</p> <p>(E) </p> <p>○既習事項と関連させる。 式は $\frac{24}{6} = 2$ です。</p> <p>学習目標 $\frac{24}{6}$ のような分母・整数の計算はど のようにすればよいのだろうか。</p> <p>2 個別に解決能力をする</p> <p>進行 (1) 時間「00分まで一人学びをして ください」</p> <p>(予められる既習の反応) ア まちがいで4つなのでそれを2でわるの だから $\frac{24}{6}$ が2つという事になって 式 $\frac{24}{6} = 2 \times 2$</p> <p>A 5分、など</p> <p>3 整理する。 ○ 自分の考えを発表してください。 ○ 同じ考えのものをまとめましょう。 ○ もっともよいと思う考え方はどれですか。</p> <p>進行 ○ 自分の考えを発表してください。 ○ 同じ考えのものをまとめましょう。 ○ もっともよいと思う考え方はどれ ですか。</p> <p>まとめ 分母・整数の計算は分子をわる事で わります。 $\frac{24}{6} = 2 = \frac{4 \times 2}{2}$ $= \frac{4}{1}$</p> <p>4 本時の学習内容の習熟を行う。</p> <p>学習リーダーの進行 (1) 時間「00分まで一人学びをして ください」 (2) 答え合わせ「○○さん、式と答え を発表してください」 (3) 質問「質問はありますか」 (4) 話し「自分の式と答えを確認して、 まちがいを話し合おう」</p> <p>目標 24で数を割られるペンキがどの このペンキでは、数を割られ ますか。</p> <p>5 本時のまとめをする。 ○ 今日の学習で学習したことや5年生に 伝えてください。</p>	<p>どんな問題の計りかたのように する。 既習を振り返り、解決の見通しを もてるようにする。また、既習法 を定式化する。</p> <p>既習のかけ算ではなくわり算 である。少数のときもできたこ とが $\frac{24}{6}$ の立式をしてみるよ うにする。</p> <p>ホワイトボードに考えをまと める。 考え方を複数考えるようにす る。 理由が分らないところから考 えることや既習で考えるなど既習 事項から気付くようにする。 考え方が異なれば、両方とも べつべつで相対する。</p> <p>「早く、正確に、分かりやすく」 などの視点で本時のつらさに 対する考え方に転換するようにす る。 個別指導時に「整理する」に 入る場合は学習リーダーがカー ドをしながら進める。</p> <p>学習リーダーが進行して、習 熟程度で考え方を活用する。</p> <p>「分母・整数の計算は分子を わる事でわります」とことを学 習したことを5年生に伝える。</p>

A2 間接指導に生きるよう直接指導の内容を工夫します。(※1・※2)

- ※1 共通(直接) ① 導入段階の直接指導のポイント
(B学年への配慮事項)
- 既習の提示の仕方
 - ・ 既習事項と結び付ける
 - ・ できるだけ短時間に課題提示
 - ・ 解決の見通しをもつこと
 - ・ 解決にかかる時間
 - ・ 解決できた後にやることの提示
 - 次の間接指導の学習活動は
 - ・ 「何のために」「何を」「どのようにする」のか明確に指示
 - ・ 方法や手順の確認
 - 両学年共通の導入・活用できる既習事項の確認
 - ・ 相互の学習にかかわりをもたせたり、共に学ぶ喜びを味わわせる

A3 直接指導に生きるよう間接指導の内容を工夫します。(※3)

- ※3 間接指導 ② 解決を試みる
④ 解決をする段階の間接指導のポイント
(B学年への配慮事項)
- 個別に解決を試みる
 - ・ 既習事項を活用して複数の解決方法で解く
 - ・ 複数の解決方法から最も早く分かり易く正確にできるものを選択
 - ・ 他方の学年の学び合いの時の発表に備え、白板シートなどにまとめて記述

※1・2・3 学習リーダーなどを中心に学び合う
学習リーダーの進行の言葉 (B学年 6年)

- 個別学習**
- (1) 時間「00分まで一人学びをしてください」
- 話し合い**
- (1) 「自分の考えを発表してください」
(2) 「同じ考えのものをまとめましょう」
(3) 「最も、早く、正確に、分かりやすくできて、よいと思う考え方はどれですか」
- 答え合わせ**
- (1) 時間「00分(12分間以下)まで一人学びをしてください」
(2) 答え合わせ(相手と自分)「式と答えを発表してください」
(3) 質問(お互いに)「質問はありませんか」
(4) 直し「自分の式と答えを確認して、まちがいを直しましょう」
- 学習リーダーの進行の言葉 (A学年 5年)**
- (1) 時間「00分(12分間以下)まで一人学びをしてください」
(2) 答え合わせ(相手と自分)「式と答えを発表してください」
(3) 確かめ「間違いがないか答え合わせをして確かめます」
(4) 直し「自分の式と答えを確認して、まちがいを直しましょう」

複式の学習指導において、個別指導の時間を確保するにはどのようにしたらよいでしょうか。

A1 両学年とも同時に個別指導の時間をとります。



POINT

以下のように、共通導入後と共通終末前に設定します。また弾力的なわたりをします。

A学年(この場合下の学年)			B学年(この場合上の学年)			
段階	指導上の留意点	学習活動	形態	学習活動	指導上の留意点	段階
課題をもつ	<ul style="list-style-type: none"> 上下両学年の学習が同時に開始するよう問題を提示します。 多様な視点から見通しを立てさせるために下学年の話し合いに対し上学年から補足するようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 問題の意味や要素などをとらえる。 2 (学年ごとに)課題をもつ。 3 共通目標を立てる。 4 解決の仕方について予想する。 	共通	<ul style="list-style-type: none"> A 学習課題の自力解決につまずいている児童の支援に回ることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 上学年のレディネスをそろえる必要が認められ、それが前年度に学習した事項のとき以下学年の課題設定についていっしょに話し合いをするようにします。 	課題をもつ
解決を試みる	<ul style="list-style-type: none"> 個別に問題を解き本時の課題解決に心がける。 	<ol style="list-style-type: none"> 5 自力解決を試みる。 	個別	<ul style="list-style-type: none"> B 弾力的なわたりによって次の直接指導へ入るタイミングが比較的自由にとることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々が予想した方法で解決を試みます。 一つの方法で自分なりの解決をみることができた児童に対しては、他の方法での解決も試させます。 弾力的なわたりで問題巡視をし個々の考えを個別しておきます。 	解決を試みる
	<ul style="list-style-type: none"> 試みる場での時間内に自分なりの解決をみなかった児童についても話し合いに参加させます。途中で個別に位置付けたり、がんばりを認めたりして、課題解決に自分も関与できたという気持ちをもたせます。 	<ol style="list-style-type: none"> 6 みんなで学び合い解決する。 7 解決の仕方・考え方のよさについて話し合う。 8 よりよい方法で課題解決を確かめる。 			<ul style="list-style-type: none"> 5 自力解決を試みる。 	
解決をする	<ul style="list-style-type: none"> 試みる場での時間内に自分なりの解決をみなかった児童についても話し合いに参加させます。途中で個別に位置付けたり、がんばりを認めたりして、課題解決に自分も関与できたという気持ちをもたせます。 	<ol style="list-style-type: none"> 9 よさについて整理する。 10 よりよい解法の仕方・考え方の適用の練習をする。 11 練習の正誤の確かめと自己評価をする。 	個別・間接	<ol style="list-style-type: none"> 6 みんなで学び合い解決する。 7 解決の仕方・考え方のよさについて話し合う。 8 よりよい解法の仕方・考え方の適用の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 試みる場での時間内に自分なりの解決をみなかった児童についても話し合いに参加させます。途中で個別に位置付けたり、がんばりを認めたりして、課題解決に自分も関与できたという気持ちをもたせます。 こちらの学年の整理は教師の出番です。 	解決をする
用いる	<ul style="list-style-type: none"> 「速く」「分かり易く」「正確に」解く解法のよさを整理します。 本時の課題についての2問目で課題が解決できているか確かめます。 2問目が解けている児童は、補充問題に取り組みます。 答え合わせを学年で行います。 	<ul style="list-style-type: none"> C 用いる段階でうまく本時の学習内容を伝えられない児童の支援に回ることができます。 	個別	<ol style="list-style-type: none"> 9 よさについて整理する。 10 よりよい解法の仕方・考え方の適用練習をする。 11 練習の正誤の確かめと自己評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートや学習カード等に、「速く」「分かり易く」「正確に」解く解法についてそのよさを整理します。 本時の課題についての2問目で課題が解決できているか確かめます。 2問目が解けている児童は、補充問題に取り組みます。 答え合わせを学年で行います。 	用いる
ふりかえる	<ul style="list-style-type: none"> 解決に役立った点や見習いたい点、及び他の児童のよさについても発表するようにします。 下学年は、共通目標に照らして、自学年の成果を発表します。 	<ol style="list-style-type: none"> 12 学習の成果についてまとめる。 	共通	<ul style="list-style-type: none"> 解決に役立った点や見習いたい点、及び他の児童のよさについても発表するようにします。 上学年は、共通目標に照らして、両学年の解決の仕方・考え方などのよさについてまとめます。 	ふりかえる	

A2 単元の後半で個別学習の時間を生み出します。

POINT 単元の概念形成の段階をA、原理適用の段階をB、習熟・定着の段階をCに設定し、個別指導の時間を意図的・計画的に設けます。



挿入記号	A			B			C		
単元の流れ	概念形成の段階			原理適用の段階			習熟・定着の段階		
ねらい	単元全体の見直しをもつ新しい考えを獲得する。			よりよい解き方を導いたり、他の問題に当てはめて解く。			学習内容の習熟・定着を図る。		
単位時間の流れ	A学年	形態	B学年	A学年	形態	B学年	A学年	形態	B学年
	課題をもつ ・ 既習事項と結び付けて学習内容を把握する。 ・ 予想を立てる。	共通	課題をもつ ・ 既習事項と結び付けて学習内容を把握する。 ・ 予想を立てる。	課題をもつ ・ 既習事項と結び付けて学習内容を把握する。 ・ 予想を立てる。	共通	課題をもつ ・ 既習事項と結び付けて学習内容を把握する。 ・ 予想を立てる。	課題をもつ ・ 学習内容を把握する。	共通	課題をもつ ・ 学習内容を把握する。
	解決を試みる ・ 自力解決を試みる。	個別	解決を試みる ・ 自力解決を試みる。	個別	解決を試みる ・ 自力解決を試みる。	個別	用いる ・ 学習したことを整理する。 ・ 個人の習得状況に応じて練習する。	個別	用いる ・ 学習したことを整理する。 ・ 個人の習得状況に応じて練習する。
	解決をする 学び合い ・ 話し合ってみながら解決する。 ・ よさについて話し合う。	間接	解決をする 学び合い ・ 話し合ってみながら解決する。 ・ よさについて話し合う。	間接	解決をする 学び合い ・ 話し合ってみながら解決する。 ・ よさについて話し合う。	間接	用いる ・ 学習したことを整理する。 ・ 個人の習得状況に応じて練習する。	個別	用いる ・ 学習したことを整理する。 ・ 個人の習得状況に応じて練習する。
	用いる ①整理・一般化 ・ 解決したことをまとめる。 ②適用・発展 ・ 練習をする。	直接	用いる ①整理・一般化 ・ 解決したことをまとめる。 ②適用・発展 ・ 練習をする。	直接	用いる ①整理・一般化 ・ 解決したことをまとめる。 ②適用・発展 ・ 練習をする。	直接	用いる ①整理・一般化 ・ 解決したことをまとめる。 ②適用・発展 ・ 練習をする。	個別	用いる ①整理・一般化 ・ 解決したことをまとめる。 ②適用・発展 ・ 練習をする。
ふりかえる ・ 学習の成果をまとめる。	共通	ふりかえる ・ 学習の成果をまとめる。	共通	ふりかえる ・ 学習の成果をまとめる。	共通	ふりかえる ①整理・一般化 ・ 学習をふりかえったり、理解不十分なところを把握して今後のめあてをつかむ。	共通	ふりかえる ①整理・一般化 ・ 学習をふりかえったり、理解不十分なところを把握して今後のめあてをつかむ。	

自力解決時に解決の方法や解決の見通しがもてない児童への支援可能。

課題解決で身に付けた学習内容を活用できない児童に支援可能。

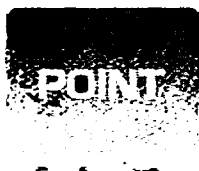
単元の終末での習熟・適用問題を個別に行い、学習速度などにも応じた個別学習が可能。

A まずは、基礎的・基本的内容を定着させるよう、教材研究や教具等の工夫により児童に確かな力を付けさせることが大切です。

その後、単位時間の学習の中での補充的な学習、単元末での補充的な学習・発展的な学習に取り組ませます。



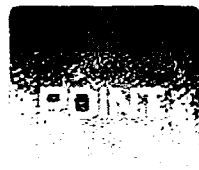
基礎的・基本的な内容を定着させるために、次のことに注意しながら指導します。



- 基礎的な知識、技能の育成と作業的・体験的な活動のバランスのとれた授業を行う。
- 問題解決的な学習や興味・関心に応じた学習を大切にする。
- 問題の開発、提示の工夫をする。(特に、共通導入を行う場合)
- 発想や直感を豊かにするための示唆や助言を準備しておく。
- 意欲につなげるような評価の工夫を行う。



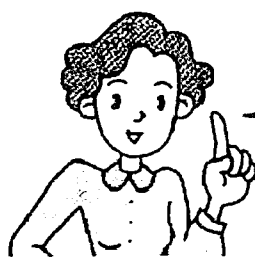
単位時間の指導では、補充的な学習を取り入れることも考えます。



繰り返し指導する中で、補充的な内容も一部取り入れることが考えられます。
例えば、「わり算」の概念がまだよく身に付いていない児童に対しては、計算のしかたを考えさせる場合にも、「分ける」ということがどういうことなのかを具体的に考えさせるようにします。そして、発表でもその児童の考えを生かしながらまとめるなど、個を生かし「考えを高めていくこと」、「補充的な学習をさせること」を意識します。児童によっては、「分けるという操作」自体が補充的な学習になるからです。

例 <3年「新しい計算を考えよう」(わり算) 4年「わり算のしかたを考えよう」(わり算の筆算)>

支援の例	学習活動(3年)		学習活動(4年)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 場合により、計算のしかたをまとめる前に、今日の問題の「分け方」の操作についてまだよく理解していない児童に操作させる等、児童に合った補充的な学習を取り入れて活躍させる場面を設定します。 ・ 実態に応じては、答え合わせを一括に行うことにより、上学年の児童が下学年の内容を補充的に学習することもできます。 ・ 下学年の学習のまとめを聞くことにより、前学年の学習を振り返ることができます。 	6	まとめる	国算	国算	6	まとめる
	7	練習問題を解く	国算	国算	7	練習問題を解く
	8	学習を振り返る	国算	個別	8	学習を振り返る
			国算	共通		



単元としての補充的・発展的な学習も考えます。
 年間指導計画の工夫によっては、同単元指導を行うこともできます。また、同単元指導が行われない場合でも、練習の時間を同一の時間に設定することにより同時に行うことができます。
 更に、計算の補充・発展を組み合わせ、同学年一緒に行うことにより、上学年の児童が下学年の児童に教えてあげるといことも考えられます。

補充的な学習や発展的な学習の内容と学習方法の例

補充的な学習や発展的な学習の内容	学習方法
<p>① 同一または類似の内容を補充的に学習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>* 計算ドリル等を行うなど、くり返しによる学習を行う。</p> <p>* 自己診断テストにより、コースを選択したり習熟度にわかれたりして学習する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>* 同じ内容を別の場面、別の方法で調べたり確かめたりして学習する。(「分数」の意味について色々な場面を想定して考える。など)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>* 作業的・体験的な活動を通して、数直線や図形についての概念を形成したり、感覚を豊かにする。</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>* 学習方法については、個別に各自選択して学習する方法、集団で学び合いながら進める方法をその目的に応じて使い分けながら進める。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>* 2学年同じ内容を学習する場合、例えば、2学年ともわり算の学習の補充学習をする場合は、上学年が下学年に教えてあげられるような学習形態をとることも学級経営の面からも考えましょう。そのためにも、学習プリント等の準備が欠かせません。</p> </div>
<p>② 学習したことを生かし、発展的な内容を学習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>* 「学習して身に付けた考え方」をどこまで使えるか試しながら、発展的な学習を行う。「2位数÷1位数」の学習、「3位数÷1位数」の学習の後に、発展的に、「4位数÷1位数」について試してみる。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> </div> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>* 時には、コンピュータを使って問題に取り組んだり、考え方をおさらいしたりさせてみましょう。</p> <p>例えば、教材ソフトを使ったり、フリーソフトを活用したりして計算問題に取り組ませたり、計算のしかたを解説したプレゼンテーションを示したりしながら学習を振り返ることもその方法の一つです。(左の2枚のスライドがプレゼンの例です)</p> </div>

学級経営

複式を単にデメリットととらえるのではなく、複式や少人数のよさを生かして学級経営に当たることが大切です。

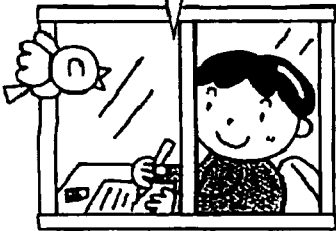
① 複式学級における学級経営のポイント

Q1 複式学級や少人数学級のよさを生かして学級経営を行うには、どのような工夫と配慮が必要でしょうか。

A 複式学級のよさや少人数学級のよさを正しく理解し、それらのよさを十分に生かしきって学級経営に当たることが大切です。

◎複式学級のよさ

相手の立場になって考えられるようになったよ。



① 相手の立場や気持ちを尊重した気付きや感じ方が身に付きます。

異年齢での集団生活を通じて、上学年の児童は下学年の児童に対して、自分の以前の姿を重ね合わせながら活動を共にすることにより、思いやりと寛容の精神をもって接する事ができるようになります。「ちょっと前まで自分もこうだったな」と振り返ることにより、下学年の児童に対し、懇切丁寧に、しかも辛抱強く指導することができるようになります。複式学級の中では、このような、ほのほのとした学びの場面が、日常的によく見られます。また、下学年と共に活動する中で、自己の成長に気付くこともできるというよさもあります。

長に気付くこともできるというよさもあります。

下学年の児童は、上学年の行動を手本としたり、上学年の児童の励ましや支えの中で活動したりすることができるよさがあります。初めて経験することでも、支えてもらっているという安心感の中で、意欲的に取り組むことができるようになります。常に上学年を尊敬し、自己の目標として具体的なイメージをとらえて活動できるというメリットがあります。

このように、複式学級は、やさしさと思いやりにあふれた児童を育成する上で絶好の環境にあるといえます。

② 主体的・自主的に活動する力が身に付きます。

複式学級において学年毎に授業をしたり、様々な活動をしたりする場合、教師は両学年の児童の活動を見守りながら、一人一人に対する適切な支援をすることになります。

したがって、複式学級で学ぶ児童は、低学年の頃から学習訓練や学び方、また活動するうえでの様々な約束事を指導されることになります。複式学級では、指示待ちの児童では学習も活動も十分な成果をあげることができません。したがって、複式学級で活動する児童は、主体的・自主的な態度を身に付けるためにより一層努力をするようになります。

◎ 少人数学級のよさ

① 個に応じた指導ができ、一人一人の力を伸ばすことができます。

少人数学級では、教師が一人一人の児童の思いや願いを十分に理解した上で指導に当たることができます。個に応じた指導が進め易い環境にあると言えます。個別指導の時間も比較的長く取れ、じっくりと児童にかかわることができます。

② 豊かな表現力を身に付けることができます。

少人数学級では、生活をする上でも、また学習をする上でも、発表の機会を多くもつことができます。自分の気持ちや考えを表現する機会が増えることにより、表現力が高まります。特に複式学級においては、上学年では下学年に分かってもらうため、分かりやすく話そうという意識が高まりますし、下学年は上学年の児童の多様な表現方法を学ぶことができます。

☆ 複式のよさを生かした学級経営の具体例

◆ 児童が主体的に活動できる場の設定の工夫をしましょう。

- ・ 一人一役を基本とし、全員に活躍の場を保障する。
- ・ 学級役員や教科リーダー等も固定せず、輪番制にすることも必要。
- ・ 給食当番や清掃等でも、縦割り活動を積極的に取り入れ、実践の場で児童を育てる。

◆ 児童の表現力や発表力を高める工夫をしましょう。

- ・ 朝の会や帰りの会などで意図的に発表の場を設ける。
- ・ 学級だけでなく、学校の全教育活動の中で、自己表現の場や機会を意図的・計画的に設定する。
- ・ パソコン等の教育機器を効果的に活用し、表現力の向上を図る。

◆ 互いのよさや頑張った点を認め合い、励まし合える場や機会を作りましょう。また評価の工夫をし、指導の改善に役立てましょう。

- ・ 朝の会や帰りの会を活用したり、展示コーナーを工夫したりして、日常的によさを認め合う場の設定を図る。
- ・ 児童のよさを継続的に記録する「長所一覧表」を作成するなど、評価の工夫を行い、多面的に児童をとらえるように心がける。
- ・ 日常の活動においても、児童自身による自己評価や相互評価を意図的に取り入れ、児童相互がよさを認め合う場を意図的に設定する。
- ・ 少人数という利点を生かして、担任だけの評価にとどまらず、複数の教員の目で評価を行い、一人一人の児童のよさを多面的に認めるようにする。

複式学級や少人数学級において、豊かな人間関係をつくりあげ、社会性を培うには、どのような配慮が必要でしょうか。

A 全教職員の共通理解の下に、家庭や地域、さらには関係諸団体の協力を得て活動に組んだり、校内での合同学習、更には交流学习や集合学習を取り入れたりしながら、集団で活動する場を計画的に設定し、社会性を培うことが大切です。

- ◎ 近年、特に、1年生が1名と2年生が2名というような、大変少ない児童数で学級を編制するケースが増えてきました。切磋琢磨させて児童の意欲を引き出したり、多様な考えを出し合う中で友達の考えのよさに気付かせたり、社会性を培ったりするには、様々な工夫が必要となります。その際、学級でできること、校内でできること、他校や関係諸団体との協力できることと分けて考えると、実現への見通しが立ち易くなります。

1 学級で取り組めること

(1) まずは担任の意識改革を

「学級内に子どもが二人しかいない。話し合いをしても変化に乏しく、いつも結論は同じ。」「係活動もマンネリになって意欲をもって活動できない。」などと、否定的に考えると創造的な活動が難しくなります。「今日の子どもたちは昨日の子どもたちとは違う。そして明日はもっと変わっていくはず。」という意識に立った時に、教師としての実践意欲が高まり、様々なアイデアが生まれてきます。「子どもは変わる」という前提に立ちたいものです。個々の児童に目を向け、手をかけることが、集団というかわりの中での人間育成にとっても絶対に必要であり、複式であっても、少人数であっても、そこには指導上のメリットが内在していると考えて、学級経営に当たりたいものです。

(2) パソコンやテレビなどの情報機器を積極的に活用しましょう。

「子どもの数が少なく、しかも学級内の人間関係が固定化していて多様な考えがでてこない」のであれば、時には、教師自身が話し合いの中に入って考えを述べることも必要です。また、たとえば、NHK教育テレビで放送された、「わかるこくご 大好きな20冊」を録画し、番組内の児童の話し合いの中に、学級の児童を参加させるという方法もたいへん効果的です。

また、教育番組にメールを送って全国の児童と交流したり、他校のホームページを訪問して交流を図ったりすることも意義のある活動です。ネット上のルールやマナーを指導し、適切な指導の下に活用を図れば、情報機器は児童の視野を広げ、社会性を培うための大切な道具となります。積極的な活用を図りたいものです。

2 校内で取り組めること

校内の取組としては、以下のようなことが考えられます。

- ・ 複数学級合同による諸活動を意図的に設定する。(合同学習)
- ・ 全校児童による縦割り活動を取り入れ、清掃活動などの諸活動に取り組む。
- ・ 保護者や地域の方々を招いて、諸活動や話し合い等に積極的に参加していただく。
- ・ 全校児童によるグループエンカウンターを実施し、よりよい人間関係の育成を図ったり、社会性を培ったりする。
- ・ 全校児童による集会活動を意図的、計画的に実施する。

山形村立荷軽部小学校では、年間を通してスピーチ集会を開いています。この集会は、「自分の思いを表現しようとする子を目ざして」というテーマで研究を進めている同校で、一ヶ月に1～3回程度、全校児童10名と教職員によって行われています。



同校のスピーチ集会は、スピーチのテーマを月毎に設定したり、児童だけでなく、教職員も交代で発表したりするところに特徴があります。

生活体験が豊かな荷軽部小学校の児童は、その豊かな生活体験に基づいて、発表の内容を考えます。季節の変化に気付いたことや、家で飼っている牛の世話のことなど、実に豊富な内容です。荷軽部小学校の実践のように、「児童の何を育て、何を鍛えるのか」という視点を明確にして行事を見直していくことが、児童の社会性を培う上で効果的です。

3 集合学習や交流学習を実施し、他校とのダイナミックな活動を

集合学習とは「同一市町村内の学校の児童を集め、各教科・領域の指導計画の一部について、関係学校の教師の協力的な指導の下で学習すること」です。

交流学習とは「学校規模や生活環境の異なる学校が、それぞれの学校独自では経験できない学習や生活を実施する方法のこと」です。

県内でも多くの地域や学校で、集合学習や交流学習に取り組んでいます。集合学習では、音楽や体育の授業に取り組んだり、修学旅行や宿泊学習を実施したりして、ダイナミックな活動を展開しています。

交流学習では、これまでは大規模校と小規模校との交流や、山間部の学校と沿岸部の学校との交流など、生活環境の異なる学校同士が、相互に訪問し合うことが主な活動でした。

しかし最近では、近隣の小規模学校同士で、運動会や学習発表会などを一緒に実施する学校もでてきます。これからの集合学習・交流学習は、より一層事前の準備や打ち合わせを行い、真に学び合いのある活動を展開することが求められます。

複式学級において様々な活動を活性化するには、どのようなことに留意すればよいでしょうか。

A ■ 複式学級の場合、異なった学年の児童で構成されているので、常に目標となる姿がそばにあるといえます。いろいろな活動を進めていく上で、上学年がリーダーとなり下学年を育て、次に自分たちが下学年を育てていくのだという意識を常にもたせることが大切です。

■ 係や委員会活動では、人数が少ないため係や委員会の数も限られ、構成メンバー数人ということもあります。しかし少人数だからこそ、児童一人一人に与えられる役割は大きく、経験する機会も多くなります。活動が停滞してしまわないよう、自己評価や相互評価を取り入れ、一人一人の存在感やよさを認め合う場を作り、意欲や責任感、自主性を育てていくようにしましょう。



低学年では、お兄さん・お姉さんの立場になった2年生が、学校生活の仕方や仕事の仕方を、張り切って1年生に教える姿が見られることでしょう。そのためにも、普段からの先生の励ましと評価が大切です。

「黒板係さんのおかげで、気持ちよく黒板が使えるね。」

「電気係さんは、今日1回も忘れなかったね。すごいな。みんなで拍手しましょう。」

POINT

- ◆ 先生の励ましと評価で意欲を!
- ◆ 上学年への配慮を忘れずに。

友達のため、先生のためにやってよかったと思う気持ちを味わわせましょう。そうすれば、他の係でもがんばろうと思いますし、他の子(特に下学年)が同じ係になった時のお手本となります。上学年への注意の仕方も配慮しましょう。低学年なりのプライドがあります。

中学年では、低学年のお手伝い的なものから、学級全体に目を向けた活動や、委員会活動などの全校的な活動が中心となります。また、高学年との交流活動も増えてくることから、集団場面での社会性や表現力、リーダー性などを育成する機会も多いといえます。

責任ある役割を経験させることで、一人一人の児童が学級・学校生活上の大事な役割を分担しているのだという思いをもたせ、意欲と自信をもって活動できるよう支援しましょう。そして、できたことはみんなの前でしっかり教師が認め、児童同士がもっている固定観念を少しでもなくしていくことが大切です。



POINT

- ◆ 責任ある役割を経験させ自信を!
- ◆ 学級の中の固定観念をなくす。



高学年になると、学級の係活動がマンネリ化になってしまうということがよくみられます。

中学年の時と比べて、児童会の活動や委員会活動など一人何役もの仕事が入ってきて、活動をする時間が少ないことも原因の一つと考えられます。

学級活動の時間を活用して、係の活動ができる時間をきちんと保障することが大切です。

また高学年ともなると、いろいろな活動の場が出てくるので、役割や責任を果たしていく機会が得られ易いといえます。また、リーダー、フォロアーの両方を経験してきているので、下学年・上学年の別なくリーダーとして活動できるようになってきます。そのためにも、上学年がよき協力者として下学年のリーダーを支えていこうとする関係を育てていくことが大切です。

POINT

- ◆ 活動の時間を保障する。
- ◆ よきリーダーとよきフォロアーの関係づくりを!

—— 児童の活動意欲や自覚を高める実践例 ——

実践例1

- 2学年ペアでの日直(低学年)
- 日直が1日のリーダー(高学年)

- ・ 縦のつながりを生かし、上学年がリードして教える。
- ・ 日直が、1日の生活や学習のリーダーとして活躍する場となる。
- ・ 2学年が互いにかかわり合いながら、自分たちで生活をつくっていかうとする自覚が生まれる。

実践例2

- 輪番制で、全員にいろんな役割を繰り返し経験させる

- ・ 児童の役割を固定化せず、司会や書記など輪番に経験することで、全員が活躍でき、役割を自覚することができる。
- ・ リーダー性を育てると同時に、フォロアーとしての大切さを学ぶ機会になる。

実践例3

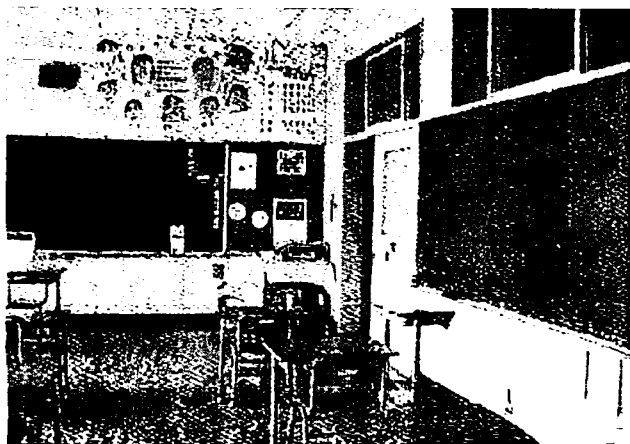


- 児童が主体的に活動できる場と機会を広げる全校活動

- ・ 全校をリードする児童会長や全校班長などは、投票によって選ぶ。全校に認められたという自覚をもって、活動することができる。
- ・ 全校縦割り班で活動(遊び・掃除・集会活動への取り組みなど)することで、上学年の下学年に対する思いやりの気持ちや、下学年の上学年に対する尊敬の気持ちが育つ。
- ・ 上学年の行動や考えに触れることで、下学年の児童に自然にそれを学ぼうとする動きがみられる。

- A**
- 単式・複式にかかわらず、清潔感あふれる教室作りを心がけましょう。
 - 上学年・下学年の別なく、学習や生活の様子が見える掲示を心がけましょう。
 - 学校毎に黒板配置は様々です。それぞれの長所を生かした活用を図ることが大切です。

【前・横配置型】



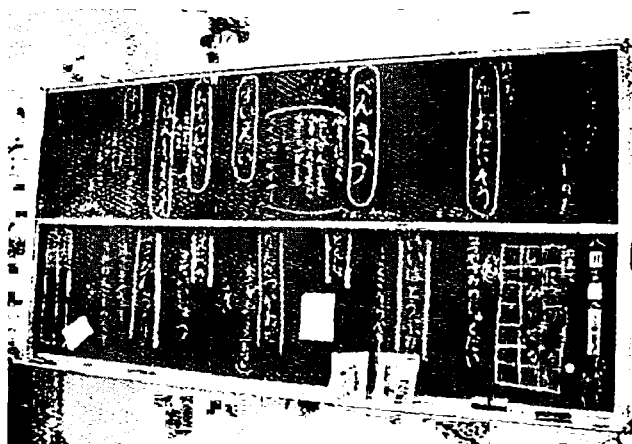
- ◇ 向きを変えて学習することにより、集中して学習できる。
- ◆ 共通の学習がしにくい。

【前・後配置 スライド型】



- ◇ 身長に合わせて上下にスライドできる黒板もある。
- ◇ 学習の目的に合わせて前後に別れるため、集中できる。
- ◆ 背中合わせて学習することになる。

【前2段型】



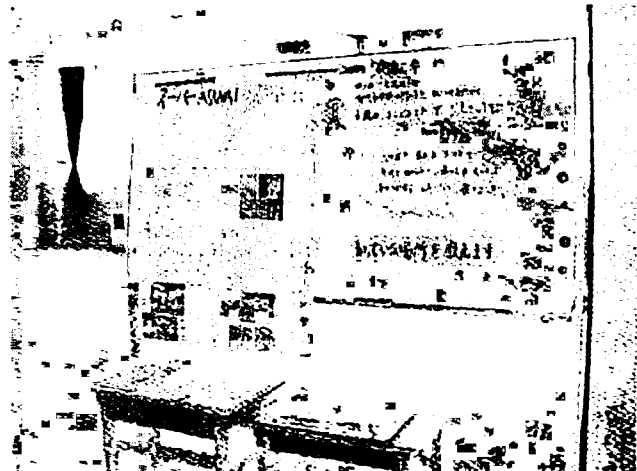
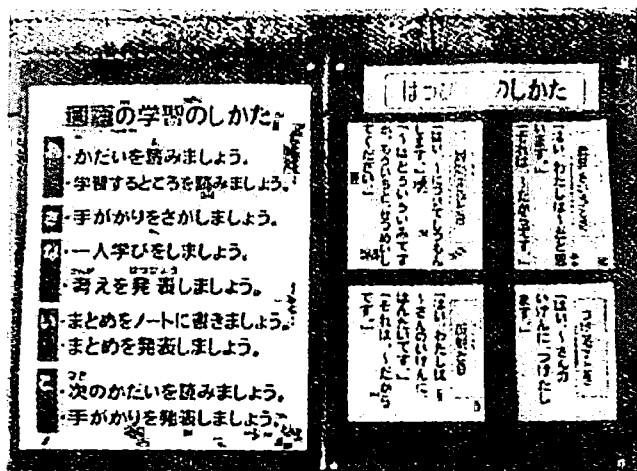
- ◇ 一緒に学習しているという意識をもつことができる。
- ◇ 共通導入やまとめなどがし易く、学習の関連性が比較できる。
- ◆ お互いの学習が気になり、集中しにくい。

【前1面型】



- ◇ 共通の学習がし易い。
- ◆ 半分ずつ使用することになるので、移動黒板、小黒板の活用や、書く内容を吟味することが必要。

[教室掲示の例]

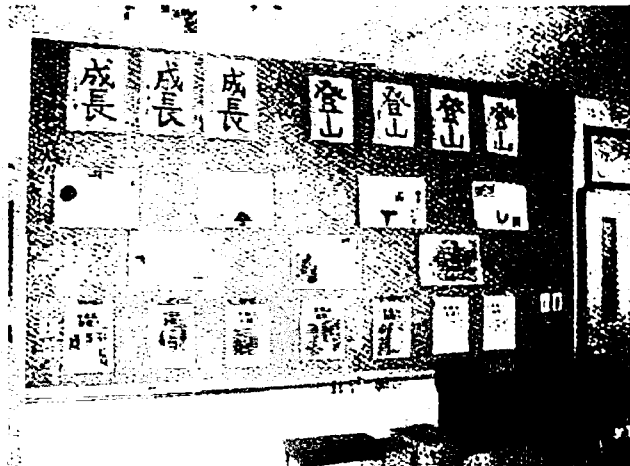
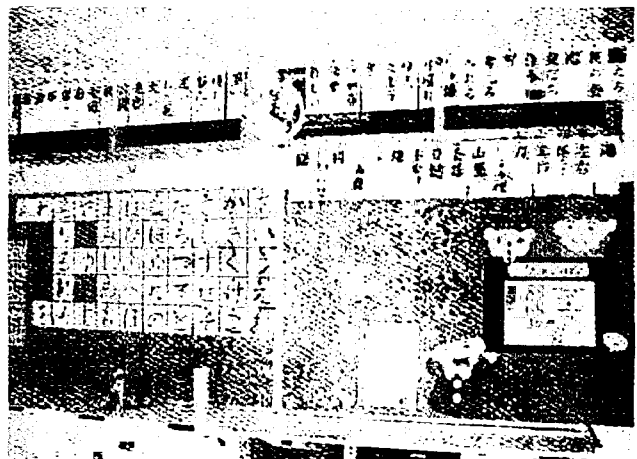
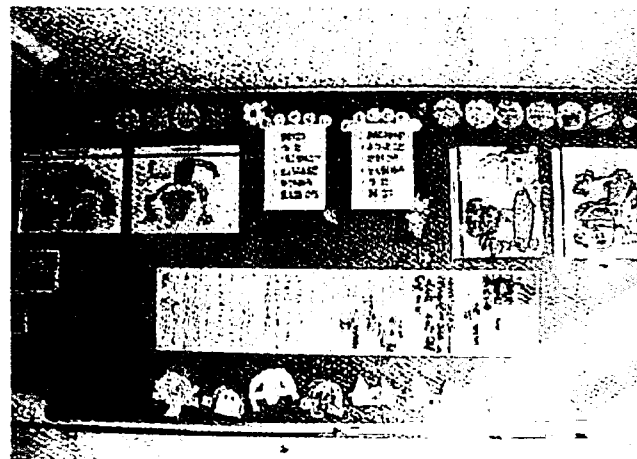


◇ 学習の進め方を掲示

児童が主体的に学習を進めていけるように、手順や内容を掲示しておく。→自学自習の時間の充実。

◇ 移動黒板の活用

ミニ黒板や、掲示板、移動掲示板として、手軽に活用できる。



◇ 学習に関する掲示

- ・ 上学年・下学年の別なく、児童の学習や活動が見える掲示を心がける。
- ・ 同学年の掲示は、上学年にとっては補充・復習、下学年にとっては発展的なものとなる。

※写真提供 岩形町立浅内小学校、湯三町立越中堀小学校、北上市立岩崎新田小学校、沢内村立貝沢小学校

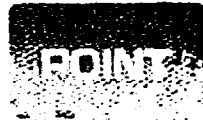
教育課程

全教職員の共通理解の下、指導体制づくりや指導形態・方法の工夫などにより、活気と自信を与える教育活動の展開に努めることが大切です。

① 全校指導体制づくりに関係して

01 教科指導において、担任外の教職員による協力教授は可能ですか。また、その際の時間割の組み方はどうしたらよいですか。

児童一人一人を理解し、確かな学力を付けるためには、全教職員一体となった協力した指導体制が必要です。



① 年度初めに、どの学年のどの教科でどの教職員が指導に当たるとより効果的か見通しを持った計画を立てましょう。

② 教職員一人一人の得意教科を生かしましょう。

③ 教職員一人一人の週時間割と児童の週時間割を調整し、できるだけ無理のない時間割を作成しましょう。

<実践例1 担任間での交換協力教授>

- ① 3年生以上で、国語科(書写)、社会科、理科、音楽科、図画工作科、家庭科、体育科等の交換授業を行う。
- ② 低学年担任が高学年への補助授業を行う。(実践例 3・4参照)

<実践例2 担任外がいる場合の協力教授>

- ① 1年生と2年生の国語科の授業を単式で実施し、そのどちらかの学年を担当する。
- ② 3年生以上の理科や社会科の授業を単式で実施し、担任が担当しない学年の方を担当する。
- ③ 全学年の国語科(書写)、音楽科や図画工作科、体育科、高学年の家庭科を担当する。

*教務主任の時間割 ~田老町立田老第三小学校~

曜日	月	火	水	木	金
1		1年国語	1年国語	1年国語	
2	1年国語			6年書写	1年国語
3		4年理科	1年国語		6年理科
4			6年理科		
5	6年理科	1年国語	4年理科		4年理科
6					

<実践例3 変則複式学級(2・3年)における協力教授>

- ① 2年生の生活科を1年担任が担当し、1年生と合同で実施する。
- ② 3年生は、単式で総合的な学習の時間・社会科・理科を実施する。

*2年(上)3年(下)時間割 ~滝沢村立柳沢小学校~

	月	火	水	木	金
1	国語	音楽	国語	国語	算数
	国語	音楽	国語	国語	算数
2	体育	図工	算数	図工	生活
	体育	図工	算数	図工	社会
3	算数	算数	生活	国語	体育
	算数	算数	理科	国語	体育
4	学活	国語	算/国	道徳	国語
	学活	国語	理科	道徳	国/総
5	国語	生活	体/国	総合	音楽
	社会	総合	体/国		音楽
6		総合	委員会		

<実践例4 変則複式学級(4・5年)における協力教授>

- ① 5年生の家庭科を1年担任が担当し、単式で家庭科を実施する。
- ② 4年生は、単式で他教科を実施する。

*4年(上)5年(下)時間割 ~葛巻町立小屋瀬小学校~

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	国語	国語	国語
	国語	国語	国語	国語	理科
2	社会	算数	算数	国語	算数
	社会	算数	算数	理科	算数
3	総合	音楽	体育	総合	図工
	総合	音楽	体育	総合	図工
4	学活	道徳	社会	算数	音/図/国
	学活	道徳	社/音	算数	図/理
5	算/体/図	体育	総合		社会
	算/体/図	体育	総合		社会
6	委員会クラブ	理科	理科		社/理
	委員会クラブ	家庭	家庭		国語

学年	1学期	2学期	3学期
第1・2学年	うたでともだちをくらす① うたでともだちをひろげよう② リズムであそぼう③ おんがくにあわせてあそぼう④	リズムにあそぼう⑤ いろいろな音のちがいをかんじよう⑥ いろいろな音のちがいをかんじよう⑦	うたをよめる⑧ うたをよめる⑨ うたをよめる⑩ うたをよめる⑪
第3・4学年	器と楽器のひびきをおわせよう⑫ リズムに親しもう⑬ 日本の音楽に親しもう⑭	いろいろな音のちがいをかんじよう⑮ いろいろな音のちがいをかんじよう⑯	うたをよめる⑰ うたをよめる⑱ うたをよめる⑲ うたをよめる⑳
第5・6学年	ふしの重なり合いを感じ取ろう⑳ 世界の音楽に親しもう㉑	いろいろな音のちがいをかんじよう㉒ いろいろな音のちがいをかんじよう㉓	うたをよめる㉔ うたをよめる㉕ うたをよめる㉖ うたをよめる㉗

音楽科実践例（年間指導計画題材配列表）

※①等は時数を表します。

音楽科の合唱・合奏といった表現学習活動や体育科のゲーム学習活動など、できるだけ多く人数でダイナミックな学習活動をさせたい教科で実施すると有効です。

- 年間指導計画にはつきりと位置付け、計画的に実施しましょう。
- 同教材でも各学年それぞれの題材の目標と評価基準を設定し、それに合わせた学習活動や教師の働きかけを工夫しましょう。
- あくまでも各学年級の学習が基本です。
- 特定の教師に指導を任せたりすることのないよう役割分担をきちんとしましょう。

02 合同学習は、どのような教科で実施すると有効ですか。また、その際どのようなことに留意したらよいですか。

体育科実践例→「岩手の小規模・複式指導ハンドブック体育科編」P48～49

	第1・2学年	第3・4学年		第5・6学年
4月	基本の運動 器械・器具を使って運動遊び (固定施設) ④	基本の運動 力試しの運動 ④	基本の運動 用具を操作する 運動 ④	体づくり運動 ④
5月	基本の運動 走・跳の運動遊び (かけっこ・リレー遊び) ⑤	基本の運動 走・跳の運動 ⑤		陸上運動 短距離走・リレー ⑤
	表現リズム遊び リズム遊び ⑥	表現運動 表現 リズムダンス ⑥		表現運動 表現 フォークダンス ⑥
6月	ゲーム ボールゲーム (ボール蹴りゲーム) ⑨	ゲーム ベースボール型ゲーム ⑦	保健 ②	器械運動 鉄棒運動 ⑥ 保健 ③
	基本の運動 水遊び ⑥	基本の運動 浮く・泳ぐ運動 ⑥	水泳 ⑥	水泳 合同体育可 ⑥
7月	②	②	②	②
	基本の運動 走・跳の運動遊び(跳び遊び) ⑧	基本の運動 走・跳の運動 ⑧		陸上運動 ⑧
10月	基本の運動 器械・器具を使つての運動遊び (跳び箱・鉄棒) ⑦	基本の運動 器械・器具を使つての 運動遊び(跳び箱) ⑦	⑦	⑦
	ゲーム ボールゲーム(ボール蹴りゲーム) ⑧	ゲーム サッカー型ゲーム ⑩	合同体育	ボール運動 サッカー
12月	基本の運動 器械・器具を使つての運動遊び (マット・平均台) ⑩	基本の運動 器械・器具を使つての 運動(マット・鉄棒) ⑩	器械運動 マット運動 ⑩ 鉄棒運動 ⑩	器械運動 マット運動 ⑧ 体づくり運動
	基本の運動 用具を操作する運動遊び (なわ・輪) ⑤	基本の運動 用具を操作する運動(なわ・輪) ⑤		④ 保健 ③
1月	基本の運動 力試しの運動遊び ②	保健 ②		保健 ②
	ゲーム ボールゲーム(ボール投げゲーム) ⑫	ゲーム バスケットボール型ゲーム ⑫	合同体育	ボール運動 バスケットボール
3月	基本の運動 表現リズム遊び(表現遊び) ④	合同体育 表現運動	表現	学年差を生かした取組の工夫

教育課程

集団的な運動においては、合同体育を取り入れると、その運動の特性に十分触れることができます。

学年差を生かした取組の工夫

② 学習指導効果の向上に関して

Q3

変則複式学級において、学年の目標の違いに応じた指導を充実させるためには、どのようなことに留意したらよいですか。

年間指導計画を作成する時点から、できるだけ同時期に類似単元の学習ができるように配列を工夫しましょう。



- ① 各学年の目標や評価規準を吟味し、指導内容や程度・段階の違いを明確にしましょう。
- ② 学習活動の中に、同活動の部分と異活動の部分とを効果的に位置付けましょう。

<4・5年生複式学級における道徳指導の実践例>

① 内容項目について

道徳の内容項目数が、4年生は18、5年生は22になっています。その数の違いは同内容同資料で学習するか異内容異資料で学習するかの選択、またその学習形態にも関係してきます。年間指導計画を作成する際に留意が必要です。

② 資料選択について

児童の実態に合わせた教材・資料を選択する必要があります。前期は4年生の資料を中心に、後期は5年生の資料を中心にといった選択の方法もあります。

③ 単位時間の指導の流れ(同内容同資料異程度の場合)

③では学年差に応じた指導の手立てが必要

導入 学校での共通体験を想起させ、本時のねらいとする価値への導入を図る。

展開 ①資料を読んで感想を発表させる。
②資料の中の主人公の心情や行動を通して、ねらいとする価値の大切さを情動的に理解させる。
③自分の生活を振り返らせ、価値と自己とのかかわりについて考えさせる。

終末 価値の実現に向けて意欲付けを図る。

4年生 自分なりに価値を実現してきた時の充実感や満足感を発表させる。

5年生 4年生の発表を基に、これからの生き方に目を向けた発表をさせる。

<2・3年生複式学級における音楽科指導の実践例>

① 題材配列について

2年生と3年生では指導目標・内容が違っていますが、学習指導要領の内容は6年間の系統性を考慮したものになっています。そこで、年間指導計画作成時点からできるだけ同時期に類似内容・題材を取り扱うように配慮することによって、異内容でも同教材で指導することが可能になります。

② 教材選択について

児童の実態に合わせた教材を選択する必要があります。前期は2年生の教材を中心に、後期は3年生の教材を中心にといった選択の方法もあります。

③ 指導の流れ(異内容同教材の場合)

2年生題材名 「ドレミであそぼう」(1学期後半題材)

目標… 歌ったり身体表現したりして、拍の流れを感じ取ったり、音高感を身に付けたりすることができるようにする。

階名で模唱や暗唱したり、これをもとに楽器で演奏したりすることができるようにする。

3年生題材名 「リコーダーに親しもう」(1学期後半題材)

目標… リコーダーの音に気を付けて聴いたり、基本的な奏法を身に付けたりすることができるようにする。

教材名 「かっこう」「さよなら」

本時の学習指導の流れ例(1時間または2時間分)

2年生本時の目標 「かっこう」を階名で歌い、運指に気を付けて鍵盤ハーモニカで演奏することができる。

3年生本時の目標 「かっこう」を階名で歌い、息の出し方や運指に気を付けてリコーダーでオブリガートを演奏することができる。

	2年生	共通	3年生
導入	階名入り簡易楽譜を視唱する 学年にあわせた準備	1 既習曲の歌唱 2 本時教材曲の歌唱 「かっこう」を歌詞唱と階名	完全楽譜を視唱する 教師による教材の編曲
展開	学年の課題確認「かっこうを鍵盤ハーモニカで演奏しよう」 課題解決 ・階名唱の練習 ・指番号の確認と運指の練習 ・演奏の練習	冬学年の学習内容に合わせて指導を加える 「かっこうであそぼう」 4 それぞれの課題解決 5 聴き合い ・学年の成果の発表 ・互いの演奏についての感想発表	学年の課題確認 「かっこうのオブリガートをリコーダーで演奏しよう」 課題解決 ・階名唱の練習 ・運指とタンギング、息の出し方の練習
終末	それぞれの学習内容の準備	6 合同演奏 ・教師の指導のもと合同演奏 7 振り返り	他学年の演奏を聴く喜びと学習の広がり

複式学級において、理科実験や校外学習など、一方の学年に重点的に指導しなければならないとき、もう一方の学年の学習効果をあげるには、どのような方法がありますか。

A 指導内容や学習のねらいに合わせて、最も効果的な指導過程を選択しましょう。

POINT

- ① 基礎的・基本的な内容の定着を図られるよう、繰り返し学習する場を工夫しましょう。
- ② 一人一人の実態を把握し、発展的な学習にも配慮しましょう。

<実践例 ドリル等を活用した繰り返し学習の充実>

基礎的・基本的な内容の定着を図るには、繰り返し学習する場が必要となります。教科の進度が十分であり、個に応じた習熟を図りたい場合は、担任外の教員に繰り返し学習を行ってもらうのも効果的です。

授業の大まかな流れとしては、初めに、全体で共通の課題に取り組ませ、次に、それぞれの課題に応じた学習を選択して進める方法が考えられます。それぞれの課題に応じた選択学習については、担任が児童一人一人の実態を把握していることから、他の教員との事前の情報交流が大切です。児童一人一人がその時間を通して、「分かった」「できた」という充実感や満足感を感じ、次時への意欲の高まりにつながるような指導を充実させていくことが必要です。

繰り返し学習としてドリル等の問題集を活用する場合、複式学級で活用されているドリルには、次のような傾向があります。

① 問題数の多いもの

問題数が多いと、個人差に対応できます。

② 解答が児童の問題形式と同じもの

自分で間違いを直せるので、自学自習の力がつきます。

③ 解き方の手順がくわしく掲載されているもの

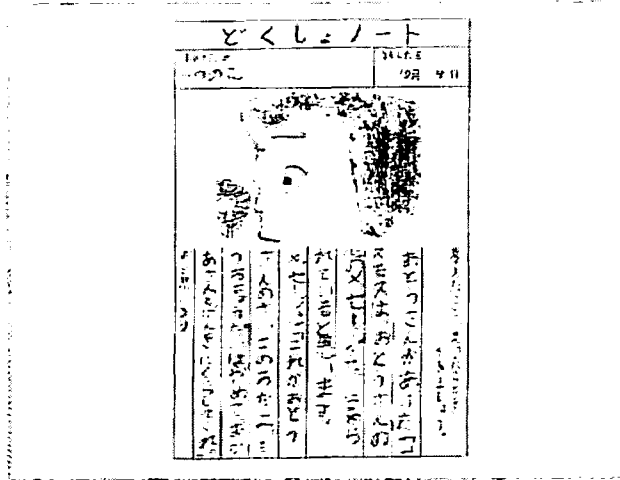
自分で学習の振り返りをすることができます。

④ 書き込みができるもの

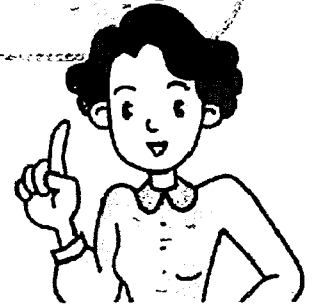
※書き込みができる問題集は、専用ノートを使うと効果的です。

さらに、発展的な学習への配慮として、次のような手立てが考えられます。

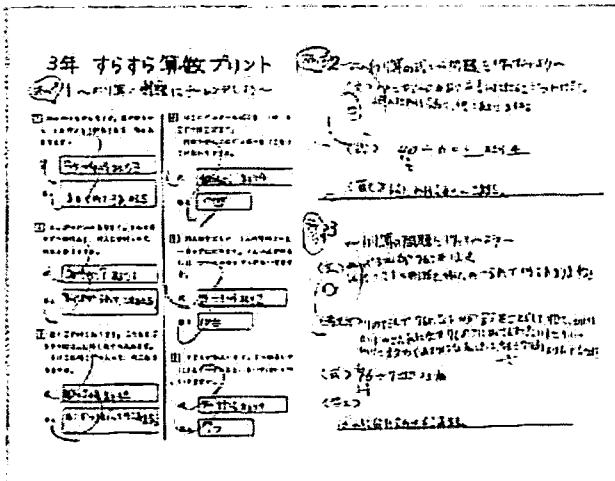
① 国語科「読書カード」(3年)



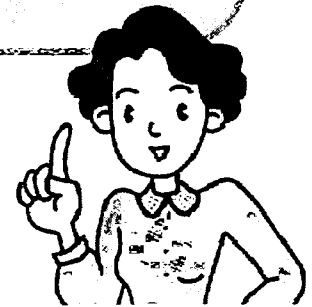
読書的な読みの力をつけるには、読書カードが有効です。



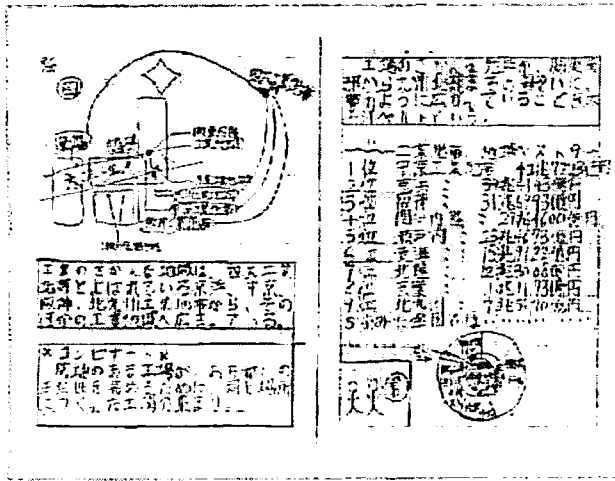
② 算数科「問題作り」(3年)



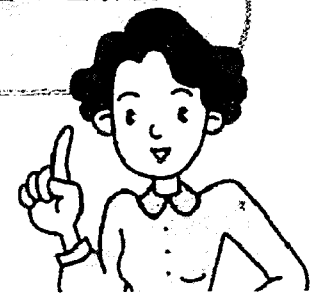
数学的な思考力の定着を図るためには「問題作り」が効果的な学習です。



③ 社会科「ノートづくり」(5年)



学習したことを自分なりに工夫してノートにまとめることは、学習の理解度を高めます。



編集委員

盛岡市立高松小学校教諭	舞田一穂
滝沢村立柳沢小学校教諭	紺野潤子
沢内村立貝沢小学校教諭	高橋恵子
田野畑村立沼袋小学校教諭	根木地淳
山形村立戸呂町小学校教諭	佐藤寿彦
岩手大学教育学部附属小学校教諭	菅原るみ子
北上教育事務所指導主事	三浦由和
北上教育事務所指導主事	和田英
宮古教育事務所指導主事	中村説子

岩手県教育委員会事務局学校教育課長	遠藤洋一
岩手県教育委員会事務局 学校教育課首席指導主事兼課長補佐	吉田道一
岩手県教育委員会事務局 学校教育課主任指導主事	深田好昭
岩手県教育委員会事務局 学校教育課主任指導主事	藤川ひとみ
岩手県教育委員会事務局 学校教育課指導主事	佐藤智一
岩手県教育委員会事務局 学校教育課指導主事	桑原良幸

複式指導資料第25集(平成16年度)

岩手の 小規模・複式指導ハンドブック

—初めて複式学級を担任する先生へ—

平成17年2月発行

岩手県教育委員会事務局学校教育課

〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1

TEL 019-629-6139



R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています。
この印刷物は700部作成し、1部あたりの印刷単価は700円です。